令和７年度　江戸川区立上小岩第二小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	上二の子どもはやり通す 〇やり通す心・・・よく学ぶ子（今年度重点）、思いやりのある子、よく働く子 〇やり通す体・・・よく遊ぶ子、よく運動する子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	〇安全・安心な学校、保護者・地域から信頼される学校 〇明るく元気に学び合える児童 〇教職員が協力し合い、互いに磨き合う教師
前年度までの本校の現状	成果：「確かな学力の向上」では、既習事項の確実な定着を行うことによって意識的な取組が少しずつ成果へと結びつき学力向上がみられる。地域資源を活かした教育では、総合的な学習の時間、生活科、理科等と関連付けて、地域への愛着形成を育むことができた。	課題	・学習意欲や基礎学力の向上、体力向上に向けた運動量の確保 ・自ら進んで挨拶や返事をすることや学習習慣が身に付けられるように家庭と連携して取り組むとともに、学校から積極的に情報発信をしていくこと ・主体的に学ぶ児童の育成を目指すために、校内研究会や研修会等を充実させること

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	〇授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後学習教室の実施 ・教員の授業力向上	・放課後学習教室定員までの登録率100% ・校内研修会と研究授業３回・全教員が学期に１回以上授業公開。	B			・EDOスク（放課後学習教室）の登録率は92%で有効的な活用をしていく。 ・校内研修会１回と授業研究１回を実施し、１学期に全学級の授業公開をして授業力向上に努めた。	B	・民間の学習塾との違いを明確にして、放課後学習教室を活用していく。					
		・週1回の全校一斉朝学習の実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が学力を高めようとしていると回答	A			・週１回朝学習を実施 ・児童へのアンケートで95%の児童が勉強ができるようになりたいと努力していると答えている。	A	・今後も週１回の全校一斉の朝学習の取組を確実に実施していく。					
	〇読書科の更なる充実	・公共図書館巡回職員による探究学習の授業の実施	・学期に1回、全学年で実施	A			・読書科で全学級で学校図書館を活用した探究学習を実施。公共図書館巡回職員を活用予定	A	・探究学習を実施していることを評価したい。 ・重点的に進めてほしい。					
体力の向上	〇個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・３０分の中休みによる外遊びの充実	・児童へのアンケート結果で、日常的に運動している８０%以上児童が回答	A			・児童へのアンケートで88%の児童が、毎日運動に取り組んでいる。	A	・３０分の中休みを児童の体力向上の取組につなげることはよい。					
		・毎学期のなわ跳び週間の設定	・全児童がなわ跳び週間に参加	A			・なわ跳びカードを活用して全児童がなわ跳び週間に取り組んでいる。	A	・なわ跳びに意欲的に取り組んでいてよい。					
共生社会の実現に向けた教育の推進	〇ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	A			・日頃から連携を取りながら、学期末に時間を確保して打合せを実施	A	日頃から連携して打合せをしていることであり、評価したい。					
	〇エンカレッジルームの有効活用	・エンカレッジルーム活用の際の校内体制を整備	・教育活動中に校内で対応できる体制が100%整備されている。	B			・10月から校内体制以外にエンカレッジサポーターを導入予定。	B	・エンカレッジサポーターの有効的な活用をしてもらいたい。					
	〇副籍交流	・学校だより等での交流実施	・コーディネーターと連携するとともに毎月学校だよりを校内に掲示	A			・学校だより等で毎月交流を実施 ・９月に特別支援学校教員による情報提供を予定	A	・今後とも副籍交流が進むことを願っている。					
不登校・いじめ対応の充実	〇豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実	・児童へのアンケート結果で、80%以上が異学年交流に意欲的に取り組んでいると回答	A			・児童へのアンケート結果で、91%の児童が異学年交流に意欲的に取り組んでいると回答	A	・豊かな心の育成を長期的に続けてほしい。 ・これからも異学年交流が進んでいくことを願っている。					
	〇L-Gateの活用	・毎日のL-Gateの記録と観察で児童の実態把握に基づいた指導の推進	・学校生活を振り返る時間を毎日確保し、各学級の実施率100%	A			・２～６年生は４月から、１年生は２学期からL-Gateの記録と観察で児童の実態を把握している。	A	・毎日のL-Gateの記録と観察で児童の実態把握に基づいた指導をしてもらいたい。					
	〇教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのＳＣ、ＳＳＷ連携率100%となるように毎週時間を確保して相談している。	A			・不登校児童とのＳＣ、ＳＳＷ連携率100%となるように毎週時間を確保して相談している。	A	・いじめが発生していないか今後とも児童の様子を観察してほしい。					
地域社会に開かれた学校（園）の実現	〇学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・毎日更新を実施	A			・情報委員会を中心に全学年と専科教員で毎週担当を決め、ホームページの更新に努めている。	A	・ホームページが充実していることは評価したい。					
	〇学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・年間に1回以上実施	B			・保護者向けに学校公開、行事毎にアンケート実施し、児童に年度当初に実態アンケートを実施	B	・今後も学校関係者評価を理解できるような評価にしてほしい。					
特色ある教育の展開	〇働き方改革の推進	・月２回以上定時退勤日を各教員が設定	・時間外労働時間が全教員月３０時間以下	A			・平均時間外労働時間は３０時間を下回っているが、３０時間以上になっている教員もいるので、働き方改革を進めていく。	B	・全教員が一斉に退出する日を設定することを検討してはどうか。					
	〇教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・年３回の授業観察や校内研究、OJT研修会の充実	A			・毎学期授業観察や校内研究授業を実施し、校外での研修で学んだことについてOJT研修会で全教員で情報共有	A	・校内での研修を充実させてもらいたい。					